国際ロータリー第2530地区　創立 1951.1.1　承認 1951.3.23　登録番号 7734

福島ロータリークラブ会報

vol. 26
2018.2.22 thu

Rotary　ロータリー：変化をもたらす

2017-18 RI 会長　イアン H.S. ライズリー

http://www.f-rotary.com/
【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12：30
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp　info@f-rotary.com

TODAY'S PROGRAM

新会員スピーチ

NHK福島放送局 局長　鈴木　仁 会員

会長あいさつ

2017-18年度会長　森岡 幸江

前回の例会で矢野会員の事業所を勘違いし間違ったことを申し上げたこと、大変申し訳ありませんでした。あってはならないことです、お詫びいたします。

この度、福島競馬場場長　勝見浩二会員がご栄転なさいます。3/1の例会で退会のご挨拶を頂きますが、「競馬を楽しむロータリアンの会」より送別会のご案内を送付しました。急な日程ですが、是非ご参加下さい。

また、20日にガバナー事務所より、米山奨学生受け入れのお願いがまいりました。年度当初より、米山奨学生の受け入れを希望しましたが、経験のないクラブが優先で見送られていました。今回喜んでお受けしたいのですが、いかがでしょうか。福島大学経営学類3年生のベトナム人、ヴォンティテコさんです。奨学期間は4月からで、5月より受け入れが始まりますので、よろしくお願いします。

平昌オリンピックも終盤にさしかかり、日本人選手の活躍が続いております。とくに怪我を乗り越え、66年ぶりに連覇したフィギュアスケートの羽生結弦選手。彼のインタビューを聞いていると、絶対に勝つという強い気持ち、練習に裏打ちされた自信と緻密な計算、サポートしてくれる方々への感謝に溢れていて、アスリートの方は技術もさることながら、精神面もとびぬけているのだと、感心しました。

オリンピックは平和の祭典ですが、今月は「平和と紛争予防／紛争解決月間」です。ロータリーの友には「平和に寄せる思い」が寄稿されておりますので、ご覧下さい。

本日スピーチをいただく、鈴木仁会員は厳しい現場での取材経験もおありになると伺っております。スピーチを拝聴させて頂きます。

例会次第

開会点鐘　森岡幸江 会長

ロータリーソング
「それでこそロータリー」
ソングリーダー　渡邊又夫 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介

米山功労者表彰伝達

会長あいさつ　森岡幸江 会長

食事

幹事報告　相良元章 幹事

各委員会報告

●**プログラム・ニコニコBOX小委員会**
ニコニコBOX担当
丹羽和也 委員

◎**本日のプログラム**

閉会点鐘　森岡幸江 会長

例会プログラムのご案内

3月1日（木）　12：30～　辰巳屋

通常例会
●ゲストスピーチ　福島市消防団
●3月誕生祝い　●「友」3月号紹介

3月8日（木）　12：30～　辰巳屋

通常例会
●RYLA研修発表　SMBC日興証券

★例会変更のお知らせ
●福島北RC、27日（火）の例会は、創立55周年記念式典、祝賀会となり、午後5時より辰巳屋にて行われます。福島RCからは会長・幹事が出席します。

★その他のお知らせ
●2月ロータリーレートは1ドル110円となりますので、お知らせ致します。
●JRA福島競馬場場長の勝見会員の送別会のご案内を差し上げております。ご確認ください。

新会員スピーチ

NHK福島放送局
局長
鈴木　仁 会員

本日は伝統ある福島RCでスピーチを行う機会をいただき、ありがとうございます。

福島に赴任したのが昨年6月で、あっという間に8か月が経ちました。

私自身は福島で生活するのは今回が初めてです。ただ、まったく福島と縁がないわけではなく、母方の祖父、そして母親は福島の本宮出身です。

祖父の名前は国分正三といいます。1891年（明治24年）に本宮で生まれ、海軍の軍人を志して1913年（大正2年）に海軍兵学校を卒業しました。卒業後は潜水艦畑を歩みましたが、1923年に酒に酔っぱらって上官を殴って大問題となり、軍法会議で懲役1年、執行猶予1年の判決を受けて海軍を馘になります。免官したときの階級は大尉でした。

祖父は海軍を辞めた翌年、当時のビルマ、今のミャンマーに渡ります。そして現地で柔道を教えながら、ビルマの独立運動に深く関わっていくようになりました。ご存じの通り、ビルマは当時、イギリスの植民地でした。ビルマ人による独立運動は、必然的に反英闘争となるわけです。中国情勢をめぐって日本と、蒋介石の国民党政権を支援していたイギリスとの関係が悪化するなか、かつて祖父を馘にした帝国海軍が、イギリスを牽制するために目をつけたのが祖父の活動でした。

海軍時代から祖父を可愛がってくれていたのが山本五十六さんでした。当時海軍次官だった山本さんは、部下の井上成美さん（最後の海軍大将となった人です）に対し、祖父の活動を資金面で援助するよう指示しました。帝国海軍の後ろ盾を得た祖父は、ビルマ独立運動の父と言われるアウン・サン将軍、今のミャンマーの事実上の最高指導者であるアウン・サン・スー・チーさんのお父さんのいわば「刎頸の友」とも言える仲となり、諜報活動はじめ、ビルマ独立活動を様々な面で支援しました。

しかしこうした活動はイギリス官憲の知るところとなり、1940年、祖父は逮捕された後、国外追放となります。本宮に戻った祖父はその後、定職につくことなく、1974年に亡くなりました。ちなみに以前、TBSテレビの「世界ふしぎ発見！」という番組で祖父のことが特集として取り上げられ、東京の我が家にはビデオが残っています。

私の母親も本宮で生まれで、10代で祖父とともにビルマに渡り、イギリス人が経営する学校の寄宿舎に入っていました。いわば「帰国子女」の走りです。そこで覚えた英語を活かして戦後間もなく、家計を助けるために、一時期福島市で占領軍の通訳をしていました。当時のオフィスが県庁の中にあったということです。その福島に私がNHKの局長として赴任したのも何らかの縁と感じています。

さて、私自身のことについてお話したいと思います。

生まれは昭和36年で、大学を卒業するまで東京で育ちました。大学は東京大学の「教養学科・フランス科」というところを卒業しました。よく間違われるのですが、「フランス文学科」、いわゆる「仏文科」とは違います。

どこが違うかと言いますと、仏文科はフランス語ができなくても作品を日本語の翻訳で読めば良く、卒論も日本語です。これに対して私が卒業したフランス科は、やることは文学であろうが政治、経済であろうが何でもよいが、フランス語が読めて、喋れて、そして書けるようになれ、という学科でした。最終的には卒論はフランス語で書かなければなりませんでした。

この教養学科というのは、戦後まもなく、前田陽一さんというパスカル研究の世界的権威が、日本でもフランス式の「少数精鋭」のエリート教育をやらなければ駄目だということで創設したものです。たとえば私の学年でフランス科に進んだのは8人で、これに対して教授・助教授は30人近くいたと記憶しています。科目によっては学生と教師が一対一でという、日本の大学では珍しい状況でした。

就職先を選ぶにあたっては、海外勤務がある、それもできればフランスに勤務できるところ、という思いがありました。しかしそれまでの学生時代、フランス哲学という、かなり浮世離れしたことをやっていたこともあ

り、商社やメーカーなど、金儲けをしなければならない会社は向かないと思い、いろいろ考えた結果、マスコミを受験したわけです。

運よくNHKに記者として入ることができ、すぐに四国・愛媛県の松山に赴任しました。記者としての基礎を叩き込まれた5年間のうち、4年間はいわゆる「サツマワリ」で、事件・事故を担当していました。「働き方改革」などという言葉は辞書になく、「1日24時間、365日が仕事」という状況でしたが、若かったうえに、初めての独り暮らしということもあり、仕事に、そして遊びに充実した日々を送っていました。

入局5年目で、兼ねてからの希望が叶い、報道局・国際部に異動となりました。その直後、1990年8月に起きたのがいわゆる「湾岸危機」、イラクのサダム・フセイン政権による隣国クウェートの侵攻でした。その年の秋からいきなり中東に出張に出され、イラクやエジプト、ヨルダン、イスラエルといった国を約4か月間取材で廻りました。

なかでも印象に残っているのはイラクのバグダッドです。ご記憶の方もいらっしゃるかもしれませんが、アメリカを中心とした多国籍軍からの攻撃を防ぐため、サダム・フセインが欧米諸国の人たちを人質、「人間の盾」として拘束し、その中に日本人も数多くいました。そのため当初、バグダッドでのメインの取材となったのは日本人がいつ、どうやって解放されるかで、市内の外国人向けのホテルに連日通いつめては朝から晩まで張り込みを続けました。

人質全員が無事に解放され、新しい年が明けて1991年になると、国連決議でつきつけられたクウェートからの撤退期限が迫るなか、果たしてサダム・フセインが撤退に応じるかどうかというのが最大の焦点となりました。

そうした中、今でも忘れられない思い出は、撤退の期限切れ直前にサダム・フセイン本人を間近で取材する機会を得たことです。バグダッドで開かれた「イスラム聖職者会議」を取材した際、事前から「やたら警備が厳重だな」と思っていたところ、突然、満場割れんばかりの拍手と歓声が起き、なんとサダム・フセイン本人が登壇し、いきなり演説を始めたのでした。それに続いてイラク国家の斉唱が行われ、私は10数メートルの距離で彼の様子をじっと観察することができ、直立不動で敬礼する彼の目がうっすらと涙で光っているのがはっきりわかりました。「これは覚悟を決めており、撤退はないな」と思い、さすがに放送では、そうはっきりとは言えませんでしたが、東京に観測情報として送りました。演説が終わって退場するフセインを追いかけ、何とかインタビューをしようと試みましたがボディガードに阻まれる私の映像が全世界に配信されました。

このようにしていよいよ「多国籍軍による空爆必至」というなか、東京からはバグダッドから一刻も早く出るよう指示がありました。イラク航空機と隣国ヨルダンのアンマン空港を結ぶ便がなくなる直前、最後から2番目の便で出国したところ、アンマンに着いて間もなく、多国籍軍によるイラク空爆が始まったのでした。

サダム・フセインに関してはそれから10年余りたった2003年、イラク戦争直後のバグダッドに数回入って取材していた際、逃亡していた彼が捕まったというニュースが飛び込んできました。強い因縁を感じながら、興奮した市民がライフルで祝砲を打ち鳴らすなかで夜通し現地からの中継で伝えました。このときはまた、宿泊していたホテルがロケット弾の直撃を受け、何が何だかわからないまま、電話で日本に生中継のリポートを送り続けたこともありました。

中東から日本に戻って間もなく、1991年の春、パリ特派員としての辞令を受けました。フランスに行きたいという希望がこんなに早く叶うとは思ってもなく、喜びと不安が交じり合った気持ちで赴任しました。入局6年目という、欧州・中東地域で最も若い特派員ということもあって、フランスだけでなく、「遊軍」としてあちこちを飛び回りました。

なかでも印象深いのが旧ユーゴスラビアの内戦です。
東西冷戦が終わって民族主義が世界各地で勃興するなか、「6つの共和国、5つの民族、4つの言語、3つの宗教、2つの文字、ひとつの国家」と言われていたユーゴスラビアで各共和国の独立の動きが広がり、血で血を洗う内戦へと発展しました。NHKの支局はユーゴにはなかったため、パリから私がいわば「鉄砲玉」として派遣され、長期間にわたって内戦をカバーすることになりました。

ボスニアでの内戦だけで20万人以上が殺害されるという、第二次大戦後のヨーロッパでは最大の惨事となった一連の内戦取材では、「戦争を知らない子供たち」の更に弟の世代の私にとって衝撃的な体験が相次ぎました。つい先ほどまで目の前にいた人の命が一瞬にして奪われることへの憤りや、迫撃弾がすぐそばに着弾するなかでの防弾チョッキとヘルメットを着けながらのリポート、日本人ならば現在80代以上の人でなければ知らない空襲警報が鳴り響くなかでの中継などなど、「安全管理」に

厳しくなった今のNHKでは考えられない、駆け出しの国際記者として貴重な経験となりました。

内戦の首謀者とも言えるが最大の共和国セルビアのスロボダン・ミロシェビッチ大統領には直接インタビューする機会を得ました。セルビアでの総選挙を取材していたとき、まったく事前の情報がないなか、彼の自宅近くの投票所で張り込みをしていたら、大統領本人が投票に訪れました。ボディガードにどつかれる中、何とか食いついて英語がわかる彼にインタビューを行い、この映像も全世界に流されました。

この他、長年にわたって中東情勢を取材する中でパレスチナのアラファト議長やイスラエルのネタニヤフ首相、アメリカのブッシュ大統領（父親の方）などを間近で取材しました。1997年から3年間アメリカのロサンゼルスに駐在していた際に、クリントン大統領やゴア副大統領、あるいは息子の方のブッシュ大統領（当時はまだ大統領候補でしたが）など、まさに「世界を動かしている」数多くの指導者を取材する機会がありましたが、ひとりひとりについて話していたら時間がいくらあっても足りないので、話題を私の専門のフランスに移したいと思います。

▲パリ新聞社襲撃事件を伝えるNW9大越キャスターとの生中継（2015年）

私がパリに駐在したのは最初が1991年間からの3年間で、ヨーロッパ総局長としての駐在が2011年から4年間と、合計で7年間駐在しました。また、2000年から4年間は隣国のベルギーのブリュッセルに駐在して、EUやNATOを取材する過程でフランスをしばしば訪れては取材しました。2003年のイラク戦争開戦直前には、戦争に反対していたフランスのドビルパン外相との単独インタビューを行い、当時のアメリカ・ブッシュ政権とイギリス・ブレア政権が国連でイラク攻撃へのお墨付きを得ようと行っていた多数派工作がフランスの外交攻勢で失敗に終わった特ダネをいち早く伝えました。

歴代のフランス大統領も間近に取材する機会が多く、とりわけ、最初のパリ駐在時代には当時のミッテラン大統領に、日本のメディアとしては最後となったインタビューを行ったのが大切な思い出となっています。

続くシラク、サルコジの両大統領も、様々な機会に取材する機会がありましたが、ヨーロッパ総局長として赴任した翌年の2012年に就任したオランド大統領とは、彼の任期中に日本のメディアでは唯一となった単独インタビューを実現させました。

▲フランスのミッテラン大統領とのインタビュー（1993年）

▲オランド大統領とのインタビュー（2013年）

歴代のフランス大統領を取材していて強く感じるのが、フランス文化とフランス語に対する強い誇りです。そしてあらゆる面で、世界が一部の超大国に支配されることに反対し、多様な文化と価値観、そして国際社会が協調して課題に対処する「多極的な世界」の重要性を強く訴えることは、どの大統領にも共通しています。

とりわけ、超大国のアメリカがトランプ政権の誕生によって「アメリカ第一主義」に走るなか、自由貿易や環境問題、テロとの戦いや安全保障など、世界が直面する課題に国際社会が一丸となって向き合うために、日本とフランスが協力していける分野はますます広がっていると感じています。

日仏関係の重要性を信じて、フランス駐在時だけでなく、日本にいるときもフランス関係の取材を続けてきました。こうした努力が認められ、去年フランス政府から「国家功労勲章」のシュバリエをいただき、福島RCはじめ、福島の大勢の方に祝っていただいたことをとても有難いと思っています。

フランス側でも日本とのパートナーシップの強化を目指しています。また、東日本大震災で被災した人や地域への強い連帯の気持ちを、震災直後にパリに赴任して直接目にしました。

今のフランス大使のピックさんは、去年夏の着任後初めての本格的な地方視察の地として福島を選び、私も歓迎のスピーチをフランス語と日本語で行いました。私が初めてフランスに駐在したころと比べ、日本とフランスの「地方の草の根レベル」の結びつきが強くなっていることを強く感じています。そうしたなか今後、私個人としても、福島とフランスの関係強化のために、何らかのお手伝いができればと考えています。

さて、NHK福島放送局は職員・スタッフがおよそ160人と、NHKで最も大きい局「地域放送局」のひとつです。東日本大震災と福島第一原発事故からの復興を中心に、県内はもちろん、東北管内や全国、そして海外に向けた情報発信に一丸となってあたっています。今年の「3・11」に向けても、当日の「テレソン」や「NHKスペシャル」などの番組、そして20本近いニュース企画を放送する予定ですので、ぜひご覧いただければと思います。

また今年は6月に被災地で初めて開催される全国植樹祭など、前向きな動きも多く予定されています。われわれとしても、福島の皆様に少しでも元気になっていただけるようなニュース・番組をお届けすべく、全力で取り組む決意でいますので、引き続きよろしくお願いいたします。

退会に寄せて

氏川　守義 元会員

福島ロータリークラブを退会してからひと月が過ぎました。入会してから15年間、皆様には大変お世話になり有難うございました。色々な場面で親しくご交誼を賜り、また皆様から多くを学ばせて頂きましたことを感謝しています。

ロータリーの奉仕活動の基本の一つである、職業奉仕とは無縁になった今、妻から命じられる家の雑事を除いては、ほぼ100%自分の為に時間を費やしています。盆栽のクラブ、囲碁の同好会、油絵のクラブ、読書、健康維持のためのジム通い等々、時間はゆったりとしているようでありながら、足早に過ぎてゆきます。油絵については今、少なくとも週に2回はカンバスに向かっています。上手く描く必要はありません。上手い絵はプロの画家に任せておけばよい、アマチュアはアマチュアらしくカンバス相手に没頭する至福のひと時を味わえればそれで大満足です。

添付の絵は40年前初めて描いた油絵です。

単身赴任のニューヨーク駐在員にとって、厳冬期の日曜日ほど所在無い時はありません。ゴルフ場は閉鎖、観劇やミュージカルを楽しむ程の語学力はない。ふと、幼い頃絵を描くのが好きだったことを思い出し油絵を始めてみようかと考えました。思い立ったら矢も盾も堪らず、ニューヨーク市内の小さな画材屋さんに飛び込みました。女主人の説明はさっぱり理解できませんでしたが、兎に角、勧められるままに画材一式と手引書2冊を買い求めました。

下宿先のニュージャージーの住宅街の片隅にある教会をモチーフに選びました。質素で鄙びたその佇まいが気に入りました。教会の近くの空き地に止めた車のドアを開け、シートに腰掛け窮屈な姿勢で描くために車内のあちこちが絵の具で汚れました。

近所の老夫婦たちが時々覗き込んで、感想を述べます。明らかにお世辞であることは分かっていても、何やら励まされました。1時間もすると寒さで手がかじかんでしまい、それ以上は続けられません。また天気の悪い日もあって遅々として進みません。初めは雪景色の筈でしたが、やがてメープルやオークが芽吹き始め、常緑樹のヒマラヤスギやタマイブキが緑を増して春の装いとなるにつれ、何度も絵の具を塗り替えました。その内ゴルフシーズンの到来と共に絵への関心をすっかり失ってしまいました。

この絵は吾ながら稚拙な出来栄えですが、初めて描いただけに捨て難く今も額に入れて我が家の壁に飾ってあります。

勝見浩二 会員　送別会

2月24（土）ホテル辰巳屋にて、勝見浩二会員　日本中央競馬会福島競馬場場長の送別会が行われました。

日本中央競馬会　本部法務部長にご栄転されます。

表彰伝達

●米山功労者
第2回マルチプル
森岡 幸江 会員

私のひとこと

船本　勝 会員
フリーアドレス

社内LAN環境の整備とIP電話の導入を機に、昨年末、窓口等一部の機能を除いて支店事務所にフリーアドレス制を導入した。

導入目的は、コミュニケーションの活性化、紙資料の削減などである。各自必要な書類は定められたロッカーから取り出して自由に席に座り、電話にログインして業務を開始するスタイルである。

当初は自らの席がなくなる不安や、どこに座るか悩まなければならない不安なども聞かれたが「案ずるより産むが易し」のとおり、施行1か月でリフレッシュ効果や違う班のメンバーとの新たなコミュニケーションを喜ぶ意見も多く出てきたところである。無事に導入を終えたところで、今後さらなる効果がみられることに期待している。

ニコニコBOX報告

本日のニコニコBOX投入額　29件　¥61,000　累計 ¥1,594,000　〈報告〉　丹羽　和也 委員

森岡 幸江 会長
今朝の新聞に石林さんのチラシが入ってました。30周年記念セブンイレブンとコラボ、あの美味しい麻婆豆腐とホイコーロー炒飯が販売されます！
鈴木会員のスピーチ楽しみにしております。

相良 元章 幹事
負けたとはいえ、カーリングに熱中しております。福島にも健康増進の目的でカーリング場を作りたいと勝手に思っております。

小原 敏 会員
インターアクト認定書ありがとうございます。今後共福島東稜高校インターアクトクラブ員は、貴ロータリークラブに少しでもお役に立ちたいと思います。

加藤 義朋 会員
お陰様で「あし」は改善に向かっています。
2月25日県中分区IM、三春交流館まほらに行ってきます。于米山親善大使が来られるので。

幡 研一 会員
NHK鈴木仁会員の楽しいスピーチに期待して。

鈴木 仁 会員
本日のスピーチ、よろしくお願い致します。食後なので、眠たい方はゆっくりお休み下さい。

後藤 忠久 会員
ご心配をお掛けしました。無事、退院を致しました。ロータリー活動もがんばります。

他クラブ会員より　大沼健次／菅野晴隆／土屋敦雄／井上賢司／八子英器／三宅 喬／内池 浩／反後太郎／信国一朗／江本和彦／渡邊又夫／靏丸直久／黒崎浩一／児玉健夫／八巻恵一／古俣 猛／佐藤英典／丹羽和也／丹治正博／佐藤美奈子／安藤健次郎／岡田新也